



黒と金のコントラストを加えたホイールは前21”、後18”のPM製。グラフィックとリブのついたパーツの造形が良く組み合っている。

TRIJYA URUSHI

文=黒川鏡仁 text by TED KUROKAWA 写真=渡辺まこと photographs by MAKOTO WATANABE
取材協力=トライジャ phone 072-970-3110 <http://trijya.com>

“漆黒”と表されるように、漆の持つ深い色味は、古来より人の心を捉えるものであった。そして漆を使った工芸品の歴史は、こと日本では古くは縄文時代、一説には1万年以上も前から存在していたと言われている。

そんな日本の伝統工芸を現代のストリートロッドへとフィーチャーリングしたこのマシンは、まさしく新旧の工芸と、洋の東西のアイデンティティーの融合と調和が意識されたもの。造形的にこそキャッチーなギミックを控えている

が、それでも車体各所に見受けられるリブのついたデザイン、艶と深みのある漆黒のペイントと、真鍮、ゴールドの色味との組み合わせはゴージャスな趣を見せる。

また、造形に見られる多くのパーツ類は何某か二次加工されたものやワンオフで製作されたモノではあるものの、それでも市販パーツを効率良く使ったそのパーツのコーディネートも創り手の優れた感性を強く匂わせる……。

古風な趣を醸す、至極、良質なストリートロッドだ。

①CVキャブを備えたTC96Bは、EMD製のカバー類も総じて黒塗りとし、各所に真鍮と金色のペイントをアクセントにしている。②マフラーはBASSANI製を装着。シンブルにまとめている。③ハイドラのナセルにグリルを加えたヘッドライト、フェンダーの造形、そしてゴールドリブを加えた色味と、クラシックな趣を強調したフロントエンド。良くまとまっている。④タンクとリアフェンダーを繋ぐシートレール、コイルカバー部分にもグラフィックを加え装飾性を高めている。ワンオフのシートに与えられた造形とステッチもまた具合が良い。⑤漆を意識した黒いペイントにゴールドのアラベスク。ゴージャスな風合いだ。

